

令和6年度 学校評価計画書（中間評価）

石川県立金沢中央高等学校昼間制

重点目標		具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判定基準	評価	データ	分析と課題	備考
1	生徒の実情に応じた学び直しによる基礎学力の定着を確かなものとするとともに、ICT活用、アクティブラーニング、ユニバーサルデザイン等を推進することで学力向上を図る。	○教職員が、1人1台の端末を有効に活用した指導を行い、生徒個々の興味・関心を高め、学力向上を図る。	教務課	【成果指標】 ・生徒用端末を授業で活用したことのある教員数が増加している。	○生徒用端末を授業で活用したことのある教職員数が全授業担当者を分母として A 75%以上である。 B 70%以上75%未満である。 C 65%以上70%未満である。 D 65%未満である。	A	76% あるときどきある 14名ある 12名	・昨年の71.4%（B評価）から、約5ポイント伸びてA評価となった。今後は単に数値を上げるだけでなく、理解度や生徒の満足度向上につながっているかの検証が必要になってくる。	○5月、2月に調査
		○教職員が、学習習慣を定着させる指導及び、授業の出席を促す指導を徹底し、生徒の授業に取り組む意識を向上させる。	生徒指導課	【成果指標】 ・授業の出席を促す指導の対象生徒数が減少している。	○授業出席を促す指導の対象生徒数が A 10名以下である。 B 11名以上25名以下である。 C 26名以上35名以下である。 D 36名以上である。	(A)	4月～7月まで5名（すべて1年生）	・例年よりも新入生の数がかなり多いため、あらゆる点が心配されていたが、落ち着いた雰囲気スタートできたと判断している。しかしながら、気の緩みからか1年生を中心に問題が見られるようになってきた。様々な機会をとらえて、意識向上のための指導をしていく必要がある。	○2月末に集計
2	卒業までを見通したキャリア教育に組織的に取り組み、生徒の希望進路を実現する。	○卒業生全員の進路実現のため、「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」「LH」等の授業の中で、コミュニケーション能力、思考力・判断力の育成を図る。	進路課 学年	【成果指標】 ・年度末には全卒業生の進路先が内定している。	○年度末における全卒業生の進路内定率が A 95%以上である。 B 85%以上95%未満である。 C 80%以上85%未満である。 D 80%未満である。	(一)			○3月に調査
		○生徒が、進路の目標をできるだけ早い時期に設定できるようにキャリア教育を進め、望ましい職業観と社会性の育成を図る。 ○年度末に卒業予定の生徒が、遅くとも6月には進路目標を持てるように指導する。また、6月に進路目標を持てなかった生徒には継続的に指導する。	進路課 学年	【成果指標】 ・年度末に卒業予定の生徒が、進路目標を持っている。	○年度末に卒業予定の生徒で、進路目標を持つものの割合が A 90%以上である。 B 75%以上90%未満である。 C 70%以上75%未満である。 D 70%未満である。	(C)			○6月、11月に調査
3	規範意識の育成、教育支援の充実、外部機関との連携により安心安全な学校づくりを推進する。	○教職員は、広報活動をより充実させるため、ホームページによる情報発信に取り組み、保護者や地域に開かれた学校づくりを推進する。これにより、保護者に学校の様子を把握してもらう。	総務課	【成果指標】 ・保護者が学年別保護者説明会、保護者懇談会に少なくとも1回は出席している。	○学年別保護者説明会、保護者懇談会に1回は参加した保護者の割合が A 90%以上である。 B 80%以上90%未満である。 C 70%以上80%未満である。 D 70%未満である。	(C)	4月～7月の調査では、411名のうち、延べ314名の保護者が懇談会に参加（1年:141名、2年:70名、3年:66名、4年:37名）	・4～5月期（24名）より6～7月期(290名)に多くの保護者が懇談会に参加した。6～7月期は中間試験後であり、卒業生では就職や進学の相談などで来校数が増加したものとする。今後の情報発信の仕方や内容を工夫改善し、保護者が学校行事や懇談会に参加しやすい環境を整えたい。	○7月、9月1月に調査
		○教職員は、「どの生徒も、いじめの被害者にも加害者にもなりうる」という基本認識を十分にふまえた指導を行う。本校の「いじめ防止基本方針」に基づく取組みを確実に実施することで、いじめの発生を防ぐ。	生徒指導課	【成果指標】 ・いじめが発生しない。	○いじめの発生件数が A 重大事案が0件かつ認知件数が0件である。 B 重大事案が0件かつ認知件数が5件以下である C 重大事案が0件かつ認知件数が6件以上10件以下である。 D 重大事案が1件以上または認知件数が11件以上である	(B)	7月のアンケート調査で1件のいじめを認知した。	・認知した案件は重大事案に至らず、現在対処中である。この他にもいじめにつながりそうな事案は起きており、いじめはどの生徒にも起こりうる、どの生徒も被害者にも加害者にもなりうるという基本認識により、引き続き未然防止、早期発見に努める。	○9月末、1月末に集計
		○健康診断や個別の指導を通じて、生徒の歯・口の健康づくりに重点的に取り組む。	保健課	【成果指標】 ・歯科検診で受診勧告された生徒が受診している。	○歯科検診の受診勧告後、受診した生徒が A 35%以上である。 B 30%以上35%未満である。 C 25%以上30%未満である。 D 25%未満である。	(D)	7% 受診勧告 142名 受診報告 10名	・7月末現在の受診率は、7%と低調であった。歯科治療が0名のクラスが12もある状況で、休業明けは、個別に受診の必要性について指導していく。	○2月に集計
		○効果的な支援を実践するために、学年会、養護教諭、外部機関等との連携による組織的支援体制を整備し、対象生徒を適時に支援する。	保健課 相談室	【努力指標】 ・教職員が生徒の困り感に気づき、周りと情報共有することができる。	○生徒の困り感に気づき、周りと情報共有することができる跟自己評価した教職員の割合が、 A 95%以上である。 B 85%以上95%未満である。 C 75%以上85%未満である。 D 75%未満である。	B	肯定的な評価 94% できた 16名 まあまあできた 18名	・授業の様子や面談で気づいたことを、学年団や職員室の周りの教職員と情報共有できている教職員の割合が9割を超えている。外部機関とも連携しながら情報共有することで、課題解決できる環境を維持していきたい。	○7月、1月に調査
4	スポーツ活動や文化活動、ボランティア活動等をととして自主・自律・助け合いの精神を備えた活力ある生徒を育成する。	○部活動紹介や一斉活動日を通じて、生徒に活動内容を具体的に伝え、積極的な参加を呼びかける。	生徒会課	【成果指標】 ・生徒が何らかの部活動に加入している。	○部活動に加入している生徒の割合が A 45%以上である。 B 35%以上45%未満である。 C 30%以上35%未満である。 D 30%未満である。	B	集計結果 （生徒数414名） 運動部 男子45名、女子25名 文化部 男子40名、女子48名	・部活動に加入している生徒の割合は、一昨年度31.1%（97名）、昨年度34.5%（125名）と推移してきており、今年度は38.2%（158名）（運動部16.9%、文化部21.3%）となっている。	○5月、10月に集計
		○オリエンテーションや全校集会時に、生徒会活動や学校行事等について、分かりやすく説明し、興味・関心を持たせ主体的な参加を促す。	生徒会課	【満足度指標】 ・生徒が、生徒会活動や学校行事に満足している。	○生徒会活動・学校行事に対する生徒の満足度が A 80%以上である。 B 70%以上80%未満である。 C 60%以上70%未満である。 D 60%未満である。	(一)	※体育祭終了後にアンケートを実施予定	・オリエンテーション時に生徒会活動や学校行事の説明をパワーポイントを用いて紹介し、参加を促す事ができた。 ・部活動紹介、総体・全国大会壮行式、花の定植などを実施する事ができた。	○10月、11月に調査
5	発達障害による困難さを抱える生徒を対象に、通級指導などによる自立活動を通して、自尊感情を高めるとともに、障害の改善または克服を目指す。	○通級指導を担当する教職員や外部講師等から自立活動の指導法や支援について学ぶ。これを生かし、発達障害のある生徒が学習上・生活上の困難さを改善克服できるよう取り組む。	通級指導推進	【成果指標】 ・教職員が、発達障害のある生徒に、個に応じた具体的な支援の場面をもつことができている。	○発達障害のある生徒に、個に応じた具体的な支援の場面をもつことができたとする教職員の割合が A 90%以上である。 B 80%以上90%未満である。 C 70%以上80%未満である。 D 70%未満である。	B	肯定的な評価 89% できた 10名 まあまあできた 22名	・個別的教育支援計画作成会を毎年継続していることや個別的教育支援計画の情報交換会や報告会など、教職員が個別の支援について具体的に触れる機会の多かったことが、高い肯定的な評価につながったものと考えている。	○7月、1月に調査
6	効率的かつ効果的な業務遂行のため、組織的な業務改善に努める。	○教材を共有したり、ICT機器を用いたりするなどして、業務改善を推進する。特に、メールや校内掲示板等を利用することで、紙文書の使用が縮減されるようにも取り組む。 ○定時退庁日の提示等により、勤務時間を意識した働き方を浸透させる。	教頭	【努力指標】 ・教職員が、ICT機器等を用いて、業務改善につながる工夫をしている。	○ICT機器等を用いて、業務改善につながる工夫をすることができた跟自己評価した教職員が A 80%以上である。 B 70%以上80%未満である。 C 60%以上70%未満である。 D 60%未満である。	B	肯定的な評価 78% できた 13名 まあまあできた 15名	・欠席連絡、授業アンケート、授業における小テスト、会議等のペーパーレス化など、教員の日常的な業務におけるICT化は着実に進んでいる。このような取組のノウハウを教員間で共有していくことで、教員の時間外勤務時間の減少につなげたい。	○7月、1月に調査